落とした一銭銅貨

新美南吉

青空文庫

雀（すずめ）が一銭銅貨（いっせんどうか）をひろいました。
雀（すずめ）はうれしくてうれしくてたまりません。
ほかの雀（すずめ）をみると、
「ぼくおかねをもってるよ。」
といって、くわえていた一銭銅貨（いっせんどうか）を砂（すな）の上においてみせてやりました。
さて、日ぐれになりました。すこしくらくなってきました。
「や、遊びすぎちゃった。これはたいへんだ。」
と雀（すずめ）は、一銭銅貨（いっせんどうか）をくわえて、おおいそぎで水車小屋（すいしゃごや）の方へとんでいきました。この雀（すずめ）は水車小屋ののきばにすんでいたので

ありました。

まだ水車小屋につかないまえ、はたけの上をとんでいたとき、あまりあわてたので、雀（すずめ）は銅貨（どうか）を落としてしまいました。

「や、これはしまった。」

けれどあたりはもう暗くて、雀（すずめ）の目はよくみることができなくなっていたので、

「あしたの朝さがしにこよう。」といって、そのまま水車小屋（すいしゃごや）の巣（す）にかえりました。

その夜はたいへん寒かったので、雀（すずめ）はかぜをひいてしまいました。

それもそのはず、雪がどっさりふったのでありました。

雀（すずめ）はかぜがなかなかなおらないので、まいにち藁（わら）の中にくるまって、落とした一銭銅貨（いっせんどうか）のことを思っていました。
やがて雀（すずめ）はよくなりました。そこで一銭銅貨（いっせんどうか）をさがしにいきました。
まだ雪ははたけの上につもっていました。
「わたしの、わたしの一銭銅貨（いっせんどうか）、この下にいるのかい。」
と、雀（すずめ）は雪の上からききました。
すると雪の下から、
「いえいえ、ここにはありません。」
とだれかがこたえました。
雀（すずめ）はまたべつのところへいって、

「わたしの、わたしの一銭銅貨（いっせんどうか）、この下にいるのかい。」

とききました。

するとまた雪の下から、

「いいえ、ここにはありません。」

とこたえました。

雀（すずめ）はあちらこちらとたずねてあるきました。

するととうとう、

「はいはい、ここにありますよ。雪がとけたらおいでなさい。」

とこたえました。

雀（すずめ）は雪のとけた日にまたはたけにやっていきました。銅貨（どうか）はちゃんとありました。

みるとはたけにはいっぱいふきのとうがでていました。銅貨（どうか）のあるところを雀（すずめ）におしえたのはこのふきのとうだったのでしょう。

青空文庫情報

底本：「ごんぎつね　新美南吉童話作品集1」てのり文庫、大日本図書
　1988（昭和63）年7月8日第1刷発行
底本の親本：「校定　新美南吉全集」大日本図書
入力：めいこ
校正：もりみつじゅんじ
2002年12月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://ww

w.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

落とした一銭銅貨

新美南吉

２０２０年　７月１３日　初版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　http://aozora.xisang.top/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/